

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・4月は大型クルーズ船の寄港が相次いだことで、ほぼ毎日、多くの外国人観光客でにぎわっている。4月25日時点の当施設の来客数は例年を20%上回っている。このままの勢いが続けば、4月としては過去最多の来客数となりそうである。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・売上が好調に推移していることから、景気はやや良くなっている。4月の売上は、2024年比で131.6%、2023年比で150.3%、2022年比で327.9%、2021年比で832.5%、2020年比で2053.3%となっている。客船の寄港が5隻あったこともプラスである。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・来客数は微減だが、販売額が増加しているため、景気はやや良くなっている。ただし、国内の団体旅行について、受入れ側の人手不足の影響で、貸切バスや宿泊施設の手配が難しくなってきていることが気掛かりである。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・例年と同様に、観光客が順調に増加している。特に乗用車を積載するケースが増えている。
	○	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションに対する客からの資料請求が増えており、モデルルーム来訪の予約件数も増えている。また、契約に至るまでの商談日数も短くなってきている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・当区域を訪れる来街者数は少ないままである。観光客を見掛ける機会は増えているが、前年よりも増えている実感はない。ビジネス客は前月に引き続き少なく、増加するような兆候もみられない。また、歓迎会などもそれほど行われていないため、夜型飲食店の売上も伸び悩んでいる。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・景気はやや回復しているものの、今一つ力強さに欠けている。
	□	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・インバウンドの来客数が伸び悩んでいる。道内客の消費行動も停滞したままである。そのため、足元の消費は小康状態が続いている。
	□	スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合各社において、チラシなどに掲載する商品のグレードをこれまでよりも少し下げる傾向がみられる。客もそうした商品に目を向けるようになっている。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・商品単価が上がっていることから、売上は前年を上回っているものの、来客数は前年を下回っている。支出を抑えるため、客が来店頻度を低下させる傾向が続いている。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・米の高値が家計に大きく影響している。直近の来客数は前年を下回っており、客の節約志向が続いていることがうかがえる。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・円安を要因とした物価高騰により、客の節約志向が続いている。一方、企業としても、円安に伴う原価高騰により粗利益が減少しているなか、人件費負担が増加しており、景気の悪い状態が続いている。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今はあらゆる物が値上がりしており、車の価格も上がっていることから、景気は厳しいまま変わらない。また、金利が上昇傾向にあることで、今後の販売に影響が出てくることも懸念される。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・決算の数字は前年と変わりがなく、決算手当も前年並みの水準にとどまっている。景気が大きく変動するような状況にはなく、横ばいでの推移が続いている。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・サービス工場の売上による下支えはあるものの、新車も中古車も受注台数及び売上が前年を下回っている。

□	自動車備品販売店（店長）	単価の動き	・例年4月はタイヤ販売が集中する時期である。今年もタイヤの販売量が前年比110%、店舗全体の売上が前年比130%と好調である。ただし、販売内容を見ると、単価の低い商材が多く、内容としては決して良いものではない。
□	その他専門店「造花」（店長）	お客様の様子	・計画どおりに前年並みの売上を達成することができたが、前年が1割減だったことから、景気が上向いているとはいえない状況にある。
□	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ランチの新規客が増えたことで、売上は何とか前年並みとなりそうである。一方、身なりが小ざれいで産地や食材に興味を持つようななじみ客が少なくなっていることは気掛かりである。また、コロナ禍前は、ゴールデンウィーク期間中に、家族や親戚が集まるような昼の予約がみられたが、今はそういった団体利用はなくなっている。地元客がSNSに外食の投稿を行うことも少なくなっている。米国の関税政策の動きを受けて、国内の株価が大幅に下がった際に、株式投資を行っている客が困っていたことがあり、飲食店の客足にも影響が生じることがあるのかと怖くなった。
□	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・3月と比べると売上は良いが、前年を下回っている。ただし、売上が伸びないのは、景気が悪いせいなのか、入居しているホテルの販売戦略の問題なのか判断が付かない。
□	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・桜の開花とゴールデンウィークが重なったことから、来客数の増加を見込んでいたが、前年と比べて観光客の動きが鈍く、来客数に大きな変動がみられなかった。
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比べて、状況が余り変わっていない。来月も同じような状況が続くとみられる。
□	観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・客単価は上昇しているものの、来客数は微減していることから、全体でみると、景気は変わらない。
□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・インバウンド需要の増加により宿泊施設の単価が上昇しており、そのことが国内旅行の落ち込みの一因となっている。
□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・3月までは販売量が前年を上回る状況が続いていたが、4月の販売量は前年並みにとどまっている。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・夜間の人出が少なく、活気のない状態が続いている。それに伴って、売上も減少している。また、乗務員不足も深刻な状態が続いている。3か月前と比べて、変化のない状況が続いている。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・物価高による消費の落ち込みを懸念していたが、売上が前月を下回ることにはなかった。前年と比べても、ほとんど変わっていないため、景気は変わっていない。
□	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・賃上げに伴う人件費の増加と原材料価格の高騰で、販売単価が高止まりしている。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・物価上昇の影響により、特に趣味し好の商材について客の動きが鈍化している。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の動きは決して良いものではない。あらゆる物が値上がりしていることで、少しでも価格の安い商品を買求めているようになっている。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・物価高が続くなか、ガソリン価格が高騰し始めたことで、客の節約志向が強まっている。車を使っの来街も大幅に減っており、今年に入り、消費が急激に落ち込んでいる。人が来ないため、商店街としては厳しい状況となっており、早めの経済対策が求められる。
▲	一般小売店「土産」（経営者）	来客数の動き	・例年4月になると、インバウンドが激減する傾向があり、今年も同様の動きがみられている。特に今年の場合は、航空便が春ダイヤに切り替わったタイミングで中国便が減ったことが大きく影響している。また、ここに来て為替が円高に振れていることも少なからず影響しているとみられる。

▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・主食である米の価格が高止まりしていることで、価格に対する客の意識がかなり高まっている。米以外の食材を買い控える傾向も強まっており、これらのことが来店頻度や買上点数の減少といった動きとして現れている。
▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・インバウンド効果もあって、観光地の店舗は好調だが、仕入単価の上昇が続いていることで、販売点数が減少傾向にある。来客数は維持できているものの、客単価が低下しており、売上の伸びを見込めない状況にある。
▲	スーパー（役員）	お客様の様子	・米の値上がりが連日のように報道されていることで、客の心理面に影響が出ている。当地では米の価格は比較的安定しているにもかかわらず、客の節約志向が強まっているようにみられる。
▲	スーパー（従業員）	単価の動き	・物価上昇によって客の動きが鈍化している。
▲	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・値上げの影響で客の購入金額が減っている。
▲	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・前月と同様に、物価高騰の影響が続いている。客単価が上昇せず、販売点数や来客数も増えてこないことから、売上も厳しくなっている。
▲	乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・新車の受注台数が地区全体で前年比80%という厳しい状況にある。中古車販売も同様の状況であり、全体的に客の動きが悪い。サービス部門の売上も厳しい状況にある。
▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・当業界を巡るネガティブな報道が多く、商品に何も問題がないにもかかわらず、客からの問合せが増えている。
▲	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・3か月前と比べて、売上の前年比が減少している。特に日用品や家電、季節商材など、この時期に売れるはずの商品が低調なことから、客の節約志向が強まっていることがうかがえる。そのため、景気はやや悪化している。
▲	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・4月は天候の悪い日が多く、日中の気温が6度ほどの日もみられた。4月としてはこれまでに経験がないような寒さであり、高齢者が中心の店舗にとっては厳しい状況であった。物価が上昇していることもマイナスである。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・冬季観光のピークが過ぎ、観光の閑散期となっている。インバウンドも冬季観光と夏季観光の端境期となっている。ビジネス客の利用も人事異動の時期で少なくなっている。これらのことから、4月は年間で最も航空機利用者の少ない時期であり、景気はやや悪くなっている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・例年4月になって暖かくなり、雪がなくなるとタクシーの利用が減り、売上が落ち込むことになる。今年も例年どおりの動きとなっており、冬期間と比べると売上が20%減っている。ただし、当社では乗務員の採用に注力しており、その効果で乗務員数が増えているため、タクシーの稼働台数が前年比プラス35%となっている。また、タクシー1台当たりの売上も前年比プラス10%となり、会社の売上は前年と比べると45%増と大幅な増収であった。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・電話やアプリなどでのオーダーが減少傾向にある。一方、イベント関係や観光客の利用に大きな変化はみられなかった。
▲	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・大型量販店の新規オープンのあった地域において、競合他社の動きが強く、顧客の流出が生じている。また、高齢者が競合格安会社のシンプルな料金プランに流出するケースも生じている。

	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・ここに来て灯油の価格が大幅に上がっていること、4月に食料品を始めとした多くの商品で値上げが行われたことから、前月中に客がまとめ買いする傾向がみられた。そのため、4月になり、客が出費を控える傾向が顕著にみられており、当店の来客数も減少している。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・客の来店サイクルが明らかに長くなっている。
	×	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・米国の関税に関するニュースをきっかけに、来客数も売上も大幅に減少している。
	×	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・国内客については、ボリューム層を中心に来店こそあるものの、買上率や買上点数の数字が悪くなっている。インバウンドについても、買上率や客単価が低下している。
	×	スーパー（店長）	販売量の動き	・米を始めとして、物価高が収まっていないことから、販売点数が減少している。
	×	スーパー（店長）	お客様の様子	・5%引きやポイント還元などを行う日は商品が売れるが、何もない日の販売動向は厳しい状況となっている。
	×	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・前月末まで好調に推移していたことから、4月も衣替えのスーツ需要が伸びると見込んでいたが、米国の関税や株価の落ち込みなど、余り良くないニュースが出た途端、客足が大きく鈍り、回復に向けた動きが全くみられなくなった。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・物価高や金利上昇などにより景気が悪化しており、個人消費が低迷している。国内客を中心に集客が大きく落ち込んでいる。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・米の高騰が長引いていることに加えて、米国の関税政策や国の経済対策の動向が不透明なことから、消費者心理がポジティブになるような要因が見当たらない。そのため、景気も好転していない。
	×	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・例年であれば、春先の4月になると住宅着工数が増えてくるが、今年は4月になっても住宅着工数が全く増えてこない状況にある。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・公共土木工事の受注が前年を若干上回るペースで進むなど、順調に推移している。建築工事は、建設コストの高騰で道内デベロッパーの分譲マンション案件が停滞しているものの、それに代わって、道外事業者による開発物件や店舗、工場、物流施設などの投資案件を受注できている。技術者の現場配置もフル稼働状態となっており、好調な新年度のスタートとなっている。
	○	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・客先との取引状況について、大きな変化はみられないものの、引き続き好調に推移している。
	○	その他サービス業【建設機械リース】（営業担当）	受注量や販売量の動き	・国内の建設総投資は堅調に推移している。ただし、今後については、民間設備投資において、米国の関税政策の影響が出てくることが懸念される。
	□	農林水産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・景気は少しずつ回復している。ただし、食料品の価格が全体的に高騰したままであり、それに伴って青果物の価格も上昇していることが気掛かりである。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量は3か月前と変わっていないが、前年を下回っている。
	□	食料品製造業（従業員）	取引先の様子	・ゴールデンウィークを控えて、観光客の動きが落ち込む時期であることから、前月と比較すると売上は減っている。ただし、季節要因を考慮すると、同水準であるとみられる。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・設計案件はあるものの、対応できる人員が不足していることで、受注できない案件が増えている。
	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・例年この時期は貨物の動きが鈍くなる傾向にあるが、今年は農産品を中心に区域内輸送が好調に推移している。また、本州向けのトレーラー輸送も、紙パルプや雑貨の荷動きが見込みほど落ち込んでおらず、順調に推移している。

	☐	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・依然として2024年問題を解消できていない。作業員やトラックの不足が続いており、思うように仕事量をこなせない状況は変わっていない。例年であれば、雪解けに伴って、国内外の物流が動き始める時期だが、忙しい割に期待ほどの収益とはなっていない。
	☐	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と同様に、受注量は堅調に推移している。サービスの解約も少なく、販売単価が上昇している案件も増えている。
	☐	司法書士	受注量や販売量の動き	・相続や売買、住宅リフォームなど、不動産登記に関する案件の販売量が引き続き好調であった。
	☐	その他非製造業 〔鋼材卸売〕 （従業員）	受注量や販売量の動き	・年が明けてから、電話での問合せなどが減っている。現在もゴールデンウィークを控えて問合せの少ない状況が続いている。
	▲	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・4月の販売量は前年比プラス26%であったが、1月の販売量は前年比プラス48%であったため、3か月前と比べると景気はやや悪くなっている。
	▲	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・米国の関税の動きが不透明なことから、景気はやや悪くなっている。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・燃料油価格激変緩和補助金が終了したことで、企業の燃料費、動力費の負担が増加し、収益を圧迫している。人手不足感も強まっており、受注抑制や生産能力の低下を危惧する声も上がっている。これらのことから、景気はやや悪くなっている。
	▲	広告代理店（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・販売価格に原価上昇分をうまく上乗せできていない状況にある。そのため、景気はやや悪くなっている。
	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・不動産の購入を検討する世代の収入が増えていない一方で、物価高騰により生活するための支出が増加している。そのため、例年と比べて、取引量が減少している。
	×	—	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・アルバイトやパートの求人数は減少しているものの、正社員の求人数はやや増加していることから、時給アップの動きと合わせて、正社員化が進んでいることがうかがえる。一方、スポットワークの求人は堅調に推移しているとみられる。
	☐	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は引き続き増加傾向で推移している。IT業界では、人材需要が恒常的に高止まりしている。流通業界では、人材流出に伴う人手不足ではなく、好調な業績を背景に人材ニーズが高くなっている。建設業界では、人材確保が追いつかず、客からの依頼を断るケースが出ているとの話が聞かれる。一方、求職者については、求人の選別を厳格に行っているというよりも、自身で何をすれば良いのか判断できずに転職市場で滞留しているようにみえる。
	☐	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・経済が動き始めているものの、物価や原油価格、資材価格が高騰していることでプラスマイナスゼロの状態となっており、景気が良くなっているとはいえない状況にある。
	☐	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・年度替わりのため、求人・求職活動が活発になっているものの、これは季節要因によるものであり、水準としては例年並みの動きにとどまっている。
	☐	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から5.5%の増加と10か月ぶりに前年を上回ったものの、月間有効求人数が前年から5.4%の減少となっている。全体の求人数が増加している状況ではないため、景気は大きく変わっていない。
	☐	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における3月の有効求人倍率は0.85倍であり、前年を0.04ポイント下回った。
	☐	職業安定所（職員）	求人数の動き	・余り増減がみられない状況となっている。また、米国の関税政策の見通しが不透明なことから、様子見している企業が多く、特段の変化がみられない状況にある。

	□	学校 [大学] (就職担当)	求職者数の動き	・各企業は人材確保に苦戦している。また、前年度と比べて早期選考が増えている。こうした動きを受けて、求人数が減少傾向にある。
	▲	—	—	—
	×	—	—	—